この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

八幡町一丁目にて

no.62

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この作品は、以前から描いてみたいと思っていた八幡町の住宅街の風景である。

先日、井の頭公園付近の住宅街で写生をしていた時、ウズベキスタンから来たという青年と知り合った。その時、手持ちのスケッチブックの中に、三年前に首都タシケントで描いた作品が偶然あったので、それを彼に見せたところ、目を丸くして驚いていた。

その作品は、ウズベキスタンを代表するナボイ劇場のそばで描いたものだが、同劇場は五十年ほど前に同国が大地震に見舞われた時、多くの建物が被害を受けた中、全く無傷で残ったことで知られている。この劇場は、戦後シベリアから送り込まれた日本人捕虜の人たちによって完成したもので、彼らの誠実な仕事ぶりを見て、作業関係者の間で、「日本人を見習え」が、合言葉になったと聞く。同国に親日家が多いのも、このようなことが背景にあるのかもしれない。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすか かずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。